

三遠南信地域内の民俗芸能に関するアンケート
結果まとめ



三遠南信地域連携ビジョン推進会議（SENA）事務局

SENA

令和6年7月

目次

1. はじめに	… 2
I. <u>三遠南信地域の民俗芸能</u>	… 2
II. <u>アンケート調査の実施</u>	… 2
2. 民俗芸能保存・継承団体あてアンケート	… 3
I. <u>アンケート実施方法</u>	… 3
II. <u>アンケート内容</u>	… 3
III. <u>アンケート回答</u>	… 4
3. アンケート結果	… 5
I. <u>団体の概要について</u>	… 5
1. <u>団体名、2. 回答者名、3. 連絡先</u>	… 5
4. <u>年代別構成員数【人数回答】</u>	… 5
5. <u>活動人数は十分に足りているか【選択】</u>	… 7
II. <u>団体の活動について</u>	… 10
1. <u>関心を持ってもらうための取組【自由記述】</u>	… 10
2. <u>行事への、地域在住者以外の協力【選択】</u>	… 10
3. <u>令和元年～5年の三遠南信地域の他団体との交流【自由記述】</u>	… 12
4. <u>後継者の育成状況【選択】</u>	… 12
5. <u>令和6年以降の活動方針（コロナ禍以前と比較して）【選択】</u>	… 17
6. <u>人口減少以外の、活動する上での困りごと【自由記述】</u>	… 17
7. <u>SENAからの支援として考えられるもの【自由記述】</u>	… 18
III. <u>団体の民俗芸能の取扱いについて</u>	… 19
1. <u>SENAウェブサイトへの掲載の可否、受入体制【選択】</u>	… 19

<参考> 三遠南信地域内の民俗芸能に関するアンケート 調査票

1. はじめに

Ⅰ. 三遠南信地域の民俗芸能

三遠南信地域は、愛知県、静岡県、長野県の県境地域に位置し、愛知県東部の東三河地域、静岡県西部の遠州地域、長野県南部の南信州地域を範囲とする、1つの県にも匹敵する広い地域です。

本地域は、天竜川や豊川など中央構造線の川筋、谷筋に沿って、かつては「塩の道」を行き交う人々が、海と山との交流を育み、現在の民俗芸能をはじめとする特色ある文化や人、物、情報のつながりを築いてきました。

国指定の重要無形民俗文化財である愛知県の「花祭」や長野県の「遠山の霜月祭」、静岡県指定の無形民俗文化財である「川川花の舞」などは似た特徴を持っており、これら南北の交流は文化的なつながりからも分かります。三遠南信地域は民俗芸能の宝庫として高く評価されています。

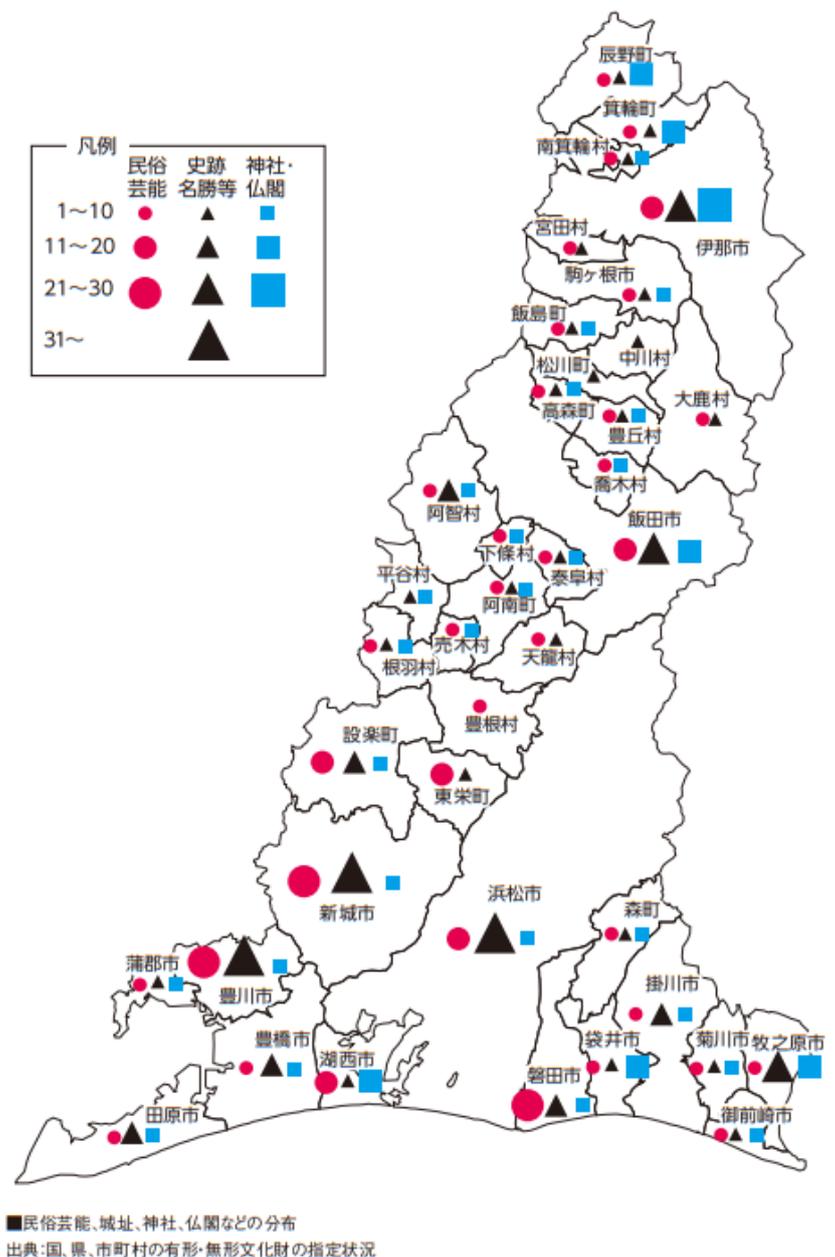
一方で民俗芸能は全国的に担い手不足が深刻化しており、その継承が課題となっているとされています。

Ⅱ. アンケート調査の実施

三遠南信地域の民俗芸能の保存・継承に向け、三遠南信地域連携ビジョン推進会議（以下、SENA）として取り組むべき「何か」を探るため、令和5年度より三遠南信地域の民俗芸能についての調査を進めています。その一環として、令和5年度末に、本地域内の民俗芸能の活動団体を対象に、三遠南信地域の民俗芸能一覧の作成や活動状況などの調査としてアンケートを実施しました。

アンケート実施にあたり、SENA 構成自治体（東三河8市町村、遠州9市町、南信州22市町村）の計39団体に、自治体内の市町村指定以上の無形文化財等の登録がある民俗芸能について照会をしました。その際に情報提供いただいた、173の民俗芸能を対象として調査を行いました。

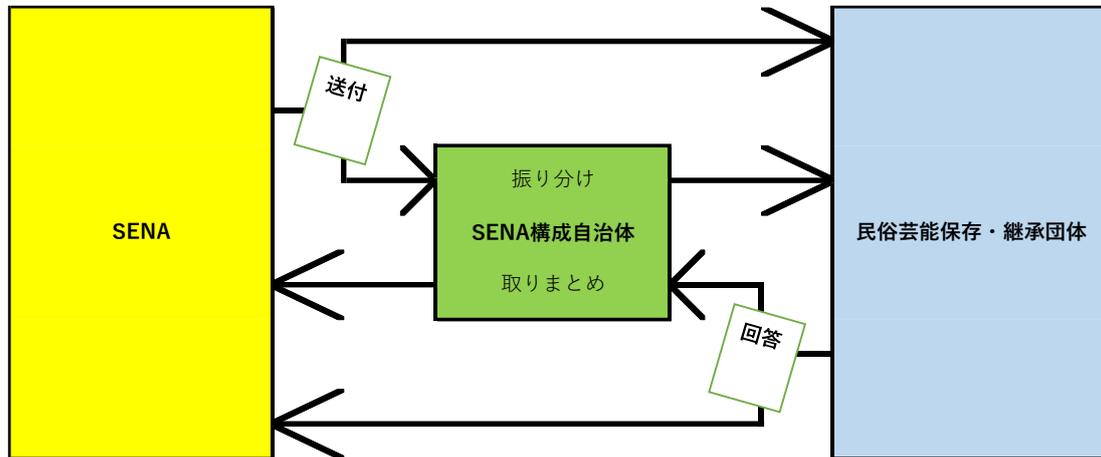
回答期間を約1か月設け、郵送、メール、FAXにて回答をいただきました。5月31日（金）の17時時点で、118の保存・継承団体から回答がありました。



2. 民俗芸能保存・継承団体あてアンケート

Ⅰ. アンケート実施方法

SENA 構成自治体から情報提供のあった、市町村指定以上の無形文化財等の登録がある 173 の民俗芸能に対し、令和 6 年 3 月 18 日（月）、SENA から直接的に、または自治体を通じて間接的に、メール・郵送でアンケートを送付しています。回答期限として、令和 6 年 4 月 17 日（水）を設定しました。また回答方法についても、SENA へ直接的、自治体を通じて間接的に回答という方法をとっています。



Ⅱ. アンケート内容

送付した調査票は郵送の場合、A4 サイズの両面刷り 3 枚です。質問への回答方法は、選択方式のものと自由記述のもの、人数等の数値で回答するものがあります。質問項目は、以下の通りです。

Ⅰ. 団体の概要について

1. 団体名
2. 回答者名
3. 連絡先
4. 年代別構成員数
5. 活動人数は十分に足りているか【選択】

Ⅱ. 団体の活動について

1. 関心を持ってもらうための取組【自由記述】
2. 行事への、地域在住者以外の協力【選択】
3. 令和元年～5年の三遠南信地域の他団体との交流【自由記述】
4. 後継者の育成状況【選択】
5. 令和6年以降の活動方針（コロナ禍以前と比較して）【選択】
6. 人口減少以外の、活動する上での困りごと【自由記述】
7. SENAからの支援として考えられるもの【自由記述】

Ⅲ. 団体の民俗芸能の取扱いについて

1. SENAウェブサイトへの掲載の可否、受入体制【選択】

Ⅲ. アンケート回答

5月31日（金）の17時時点で、118の回答がありました。

当初、市町村指定以上の文化財登録のある民俗芸能を対象としており、アンケート送付先の団体数を173として考えていましたが、1つの民俗芸能の文化財登録に対して保存・継承団体が2団体以上あるものや、春と秋の2つの祭礼が文化財登録されているが実施団体は同じ人々であるケースなどがあり、現状、SENA事務局で把握している「市町村に登録された文化財（民俗芸能）の保存・継承団体」の母数は177と考えられます。

全体の回答率は177団体中118団体で、割合としては66.67%で、約3分の2の回答を得ることが出来たこととなります。

また、全177団体の地域別の内訳は、東三河地域が64団体、遠州地域が50団体、南信州地域が63団体です。

これをもとに、地域別の回答率をみると、東三河地域が64団体中47団体で73.44%、遠州地域が50団体中37団体で74%、南信州地域が63団体中34団体で53.97%となっており、どの地域においても半数以上の回答を得られています。

	団体数	回答数	地域別回答率
東三河地域	64	47	73.44%
遠州地域	50	37	74.00%
南信州地域	63	34	53.97%
三遠南信	177	118	66.67%

177団体のうち、自治体からの情報提供を参考にした登録の種別ごとの団体数については、国指定のものが34、記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財指定が10、県選択・指定が37、市町村指定のものが96という内訳です。このうち実施団体の民俗芸能の種別ごとの回答率は、国指定が27で79.41%、記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財指定が4で40%、県選択・指定が28で75.68%、市町村指定のものが59で61.46%という結果となっています。

文化財登録の種別	全体	回答団体	回答率
重要無形民俗文化財（国指定）	34	27	79.41%
記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財（国選択）	10	4	40.00%
無形民俗文化財（県指定・選択）	37	28	75.68%
無形民俗文化財（市町村指定）	96	59	61.46%

各団体からいただいたアンケートの回答は民俗芸能の現在の活動状況を確認するのに大変参考になるものがありますが、回答内容にばらつきがみられ、質問項目ごとに有効回答数が異なることに注意が必要です。また、調査対象が市町村登録以上の民俗芸能となっており、地域の神社の神事や、登録をされていない地歌舞伎などの民俗芸能は含まれていないことにも留意していただく必要があります。

3. アンケート結果

アンケートの質問項目ごとに、回答結果を見ていくこととします。

1. 団体の概要について

1. 団体名、2. 回答者名、3. 連絡先

これらの項目については個人情報が含まれるため非公開としますが、今後の連絡等に用いるための連絡先を差し支えない範囲でお伺いしています。

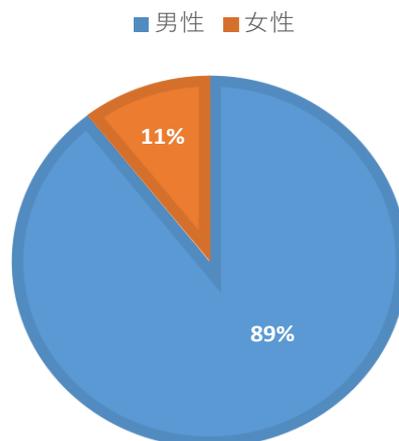
参考までに、回答者の方の役職は保存会会長、副会長、氏子総代、庶務担当など様々でしたが、約半数の回答は「会長」「代表」といった方々からいただいています。また、今後の SENA からの連絡先として、メールアドレスと電話番号をお聞きしていましたが、電話番号は 110 団体にご記入いただけたのに対し、メールアドレスの記入があったのは 49 団体という結果となっています。

4. 年代別構成員数【人数回答】

こちらは、男女別で「10代以下」「20代」「30代」「40代」「50代」「60代」「70代」「80代以上」の年代別の構成員数と、男女別の合計について伺ったものです。人数について数値で回答をしていただくもので、年代が不明の場合は合計のみの記入で良いものとなっています。男性・女性の参加合計人数を数値で記載している団体は 104 ありました。このうち、年代別の内訳まで記載しているデータだけに注目をしますと、67 団体ありました。およその数で端数を切り上げるなどして記入している団体もあることに留意する必要がありますが、男女比率、年代の比率データを確認する本項目では、この 67 団体分のアンケート結果を母数とします。

三遠南信地域の民俗芸能を総合的に見た際に、祭りの参加者の男女比率、年齢層は以下の通りとなりました。

<図1>のグラフは 67 団体の構成員の男女比率を表したものです。民俗芸能に参画する構成員数は男性が多い傾向にあるようで、67 団体すべてにおいて女性よりも男性の構成員が多い結果となっています。また、女性の構成員数について未記入または 0 人と記載した団体は 33 団体あり、アンケート結果からは約半数の団体に女性の構成員がないという結果となっています。今年から女性参加を認めて祭りを開催する予定であると回答のあった団体もあります。

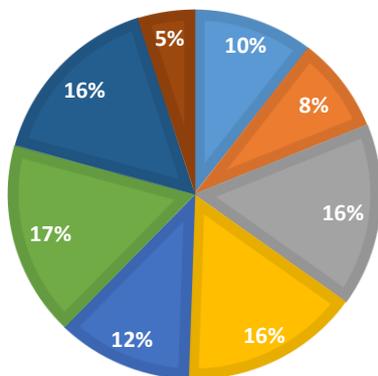


<図1：構成員の男女比率>

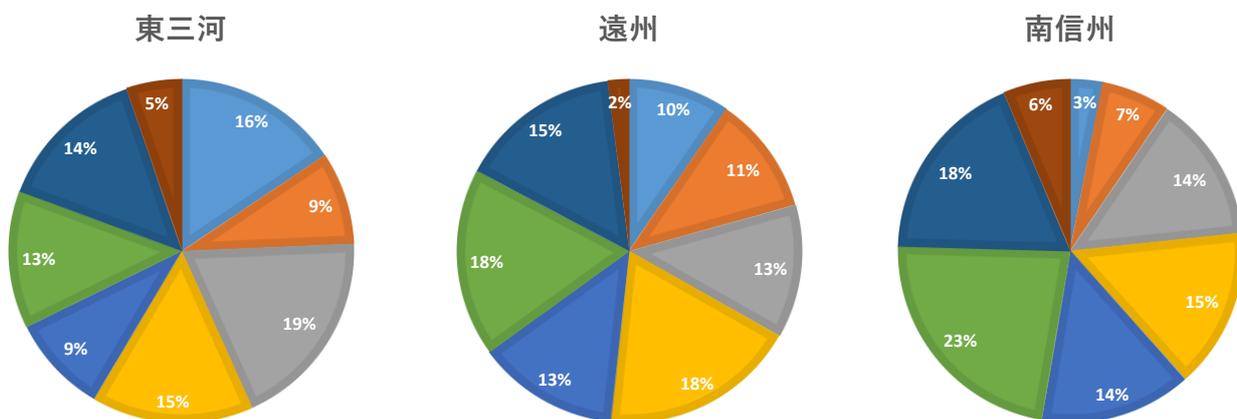
次ページ<図2>のグラフは、構成員の年齢構成比を表すものです。40代までの世代の構成員の比率と、50代以上の世代構成員の比率がそれぞれ約半分ずつを占めています。50代以上の世代のみの構成員しかいないと回答があった団体は、67 団体中 11 団体あり、人口が著しく少ないというわけでははない地域でも高齢化の進んでいる団体が見受けられました。<図2-1><図2-2><図2-3>は、それぞれ東三河地域、遠州地域、南

信州地域ごとに見た、構成員の年齢構成比を表すものです。遠州地域が比較的、三遠南信地域全体の年齢比率の平均に近いグラフとなっています。東三河地域は一見すると若年層の参加割合の多いグラフとなっていますが、比較的若年層が主体でなおかつ構成員数の多い規模の大きな民俗芸能があるためと考えられます。また、南信州地域も50代以上の構成員比率が61%となっており、他の2地域に比べて40代以下の割合が少ないのも特徴的です。地域により、構成員の年齢層には違いがあることが分かりました。

■10代以下 ■20代 ■30代 ■40代 ■50代 ■60代 ■70代 ■80代以上

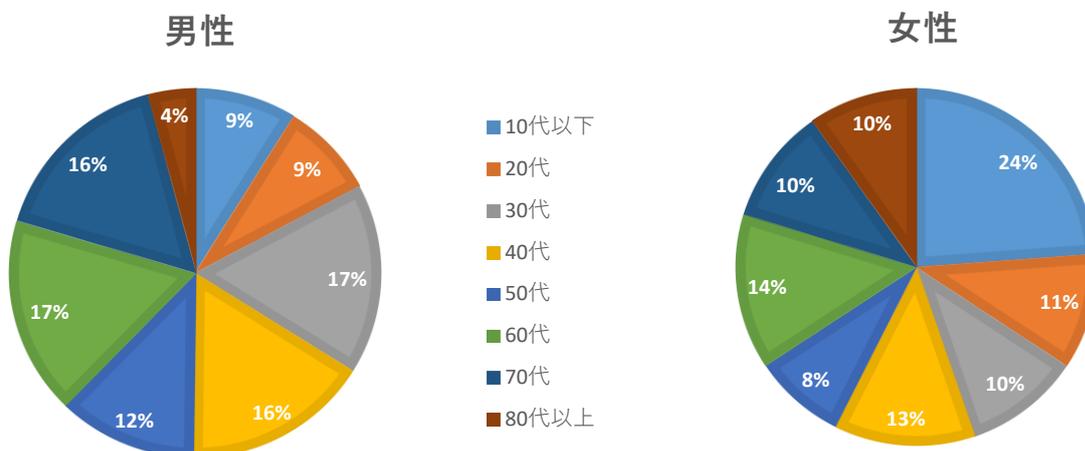


<図2：構成員の年齢構成比>



<図2-1：東三河地域の構成員年齢構成比> <図2-2：遠州地域の構成員年齢構成比> <図2-3：南信州地域の構成員年齢構成比>

また、<図3>のグラフは、構成員の男女別年齢構成比を表すものです。左側が男性構成員の年齢別の比率を、右側が女性構成員の年齢別の比率を表しています。念仏踊りなどは比較的他の種類の民俗芸能に比べて10代以下の女性参加が多い傾向にあり、割合が高くなっています。しかしながら、<図1>で示したように、割合の計算の母数となっている女性の構成員数の合計人数が少ないことに注意が必要です。

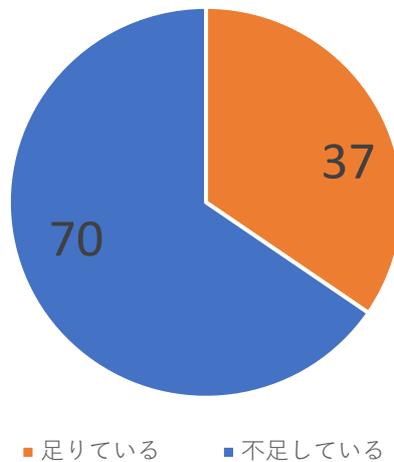


<図3：男女別の構成員の年齢構成比>

5. 活動人数は十分に足りているか【選択】

こちらは、「足りている」「不足している」の2択で回答する質問です。「不足している」と答えた団体に、不足人数を「〇名程度」と数値で回答いただくものです。また、人数が不足している役割についても質問をしています。この質問に対し、107団体が「足りている」または「不足している」と回答をしています。〈図4〉

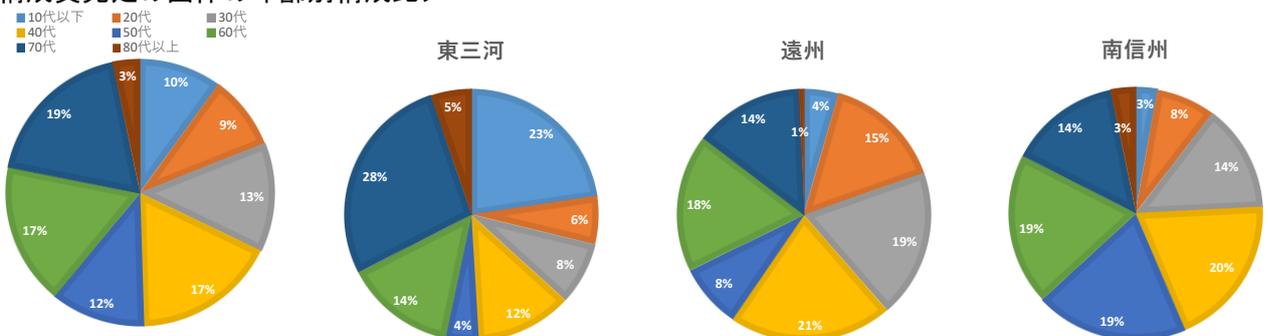
〈図4：構成員数は足りているか〉



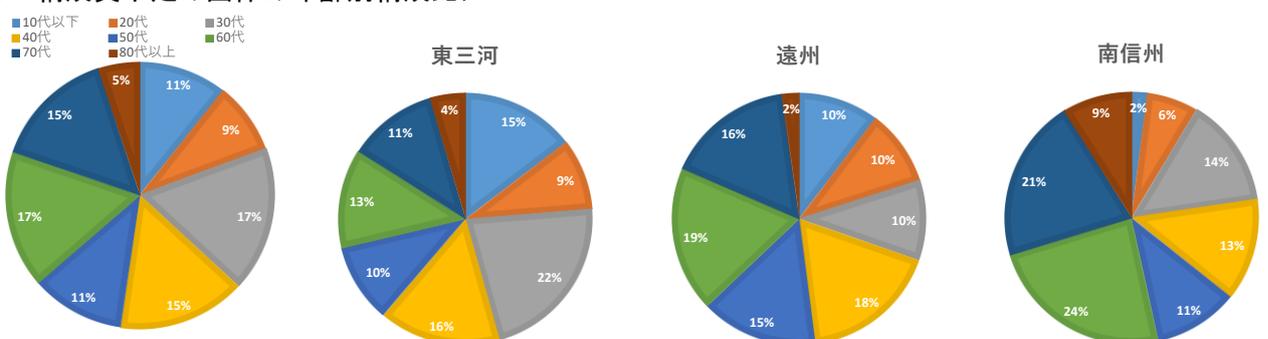
「足りている」と答えたのは、107団体中37団体、割合にして34.58%の団体です。「ぎりぎりの人数である」との回答もいくつかありましたが、約3分の1の団体は不足を感じていないという結果です。一方、「不足している」と答えたのは約3分の2の70団体でした。

年代別の構成員の内訳を回答いただいている団体で、構成員の人数が「足りている」と回答した16団体と、「不足している」と回答した43団体の年齢別の構成比に注目しました。算出した〈図5〉〈図5-2〉の左側にある三遠南信地域の年齢別構成比割合は、〈図2〉の構成員の年齢別構成比の円グラフと近い形を示していますが、それぞれを地域別で見ると、各地域により特性があることが分かります。

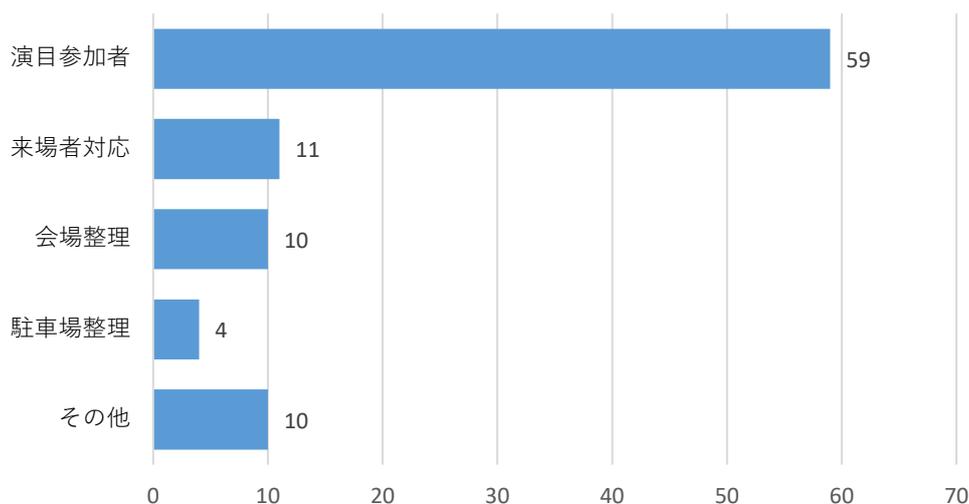
〈図5：構成員充足の団体の年齢別構成比〉



〈図5-2：構成員不足の団体の年齢別構成比〉



人数が「不足している」と回答した 70 団体のうち、どういった役割で不足しているかについて、選択回答（複数選択可）している内容を回答数でまとめたものが<図6>のグラフです。回答数で一番多いのは「演目をおこなうための人数」で 59 の回答がありました。「受付も自分たち（出演者）で行っている。」「踊り手が不足（踊りがハードの為、やって 50 代前半まで）」「行事の際、仕事と重なり参加人数に限りがある時がある。」「行列にはある程度人数が必要であるが、役割によって幼稚園児、小学生、中学生が足りない地域がある。」といったような理由で演者の不足を感じているようです。これら不足を感じているの民俗芸能の種類は、延年・おこない、神楽、渡来芸・舞台芸、風流、田楽、練り・行列、獅子舞、お囃子、その他と様々でした。他に、人数が不足している役割には「来場者対応」「会場整理」等といった回答もありましたが、すべてにおいて不足していると回答した団体が 4 団体ありました。



<図6：人数不足の役割：複数回答可>

「その他」に回答している団体の、不足している役割について、一部紹介をします。今回のアンケートには選択肢を設けていなかったのですが、民俗芸能本番前までの期間の祭具制作などの「準備」の段階からの人数の不足があるようでした。また、役割ではないものの「高齢化・若手不足」を構成員不足の理由としている団体もあり、高齢化による参加者減少や担い手が不足している現状があるとのことでした。民俗芸能の構成員の不足をカバーするために、裏方の役割から減らしているとみられ、工夫しながら行っていることが分かりました。

さて、「不足している」と答えた団体には、おおよその不足人数についても回答いただいています。この設問には数値で回答いただく想定でしたが、数値化できない文章での回答などがあり、そうした回答については無効としています。また、「2～3名程度」といった幅のある回答については、最大値（この場合では3名）を不足数としています。不足している人数は団体により差があり、少ないところでは3名程度、多いところでは50名程度の不足があるとのことでした。

しかしながら、団体の規模によって不足人数の数の重みは変わると考えられるため、不足人数の数値そのものではなく、不足人数から逆算したそれぞれの団体が活動するために必要としている人数と、現状の参加人数を比較し、それぞれの団体がどれくらいの割合の力で頑張っているかという「**現状の参加割合**」を算出することとしました。また、各団体の構成員1人あたりが何人分の負担をしているかという、負担感を表すための指標として、「**1人あたりの働き**」についても算出をしています。

これらを導き出すにあたり、「不足している」と選択し、不足人数の回答をいただいている、質問I-4の構成員の人数の合計を記入している（年代別内訳は書いていなくても良い）、57団体を対象としています。

各団体の「現状の参加割合」の算出式は以下の通りです。

$$\text{現状の参加割合 (\%)} = \frac{\text{現状の参加人数}}{\text{必要人数 (現状の参加人数+不足人数)}} \times 100$$

また、「1人あたりの働き」についての算出式は次の通りです。

$$\text{一人当たりの働き (人分)} = \frac{\text{必要人数 (現状の参加人数+不足人数)}}{\text{現状の参加人数}}$$

これを、団体ごと算出しました。

<図7：参加割合と1人あたりの働き 算出結果>

	参加割合 (%)	1人あたりの働き (人分)
参加割合の最も高い団体	97.16	1.03
参加割合の最も低い団体	10.71	9.33
三遠南信平均値	70.66	1.63

これらを団体ごと算出していくと、<図7>のように、「現状の参加割合」については最大が97.16%、最小が10.71%となっています。必要な構成員数の約97%の人員で運営しているところもある一方で、本来必要な人員の数に満たない10分の1の人数で運営をしている団体があるという結果となりました。「1人あたりの働き」に換算すると、1人が1.03人分働く団体と、1人が9.33人分働かなければならない団体があり、同じ「不足がある」という回答でも団体によってその負担感は大幅に変わることが分かります。

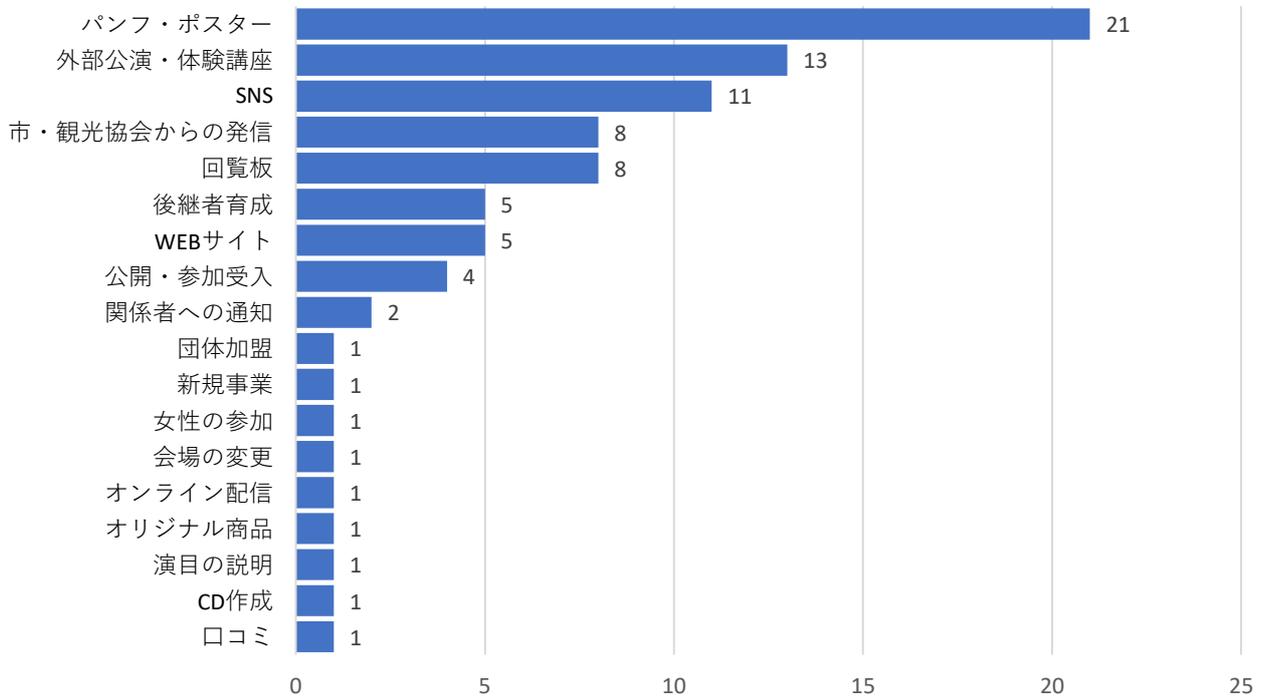
構成員の不足を感じている団体の「現状の参加割合」「1人あたりの働き」の平均を算出すると、「現状の参加割合」は70.66%、「1人あたりの働き」は1.63人分となり、多くの団体が本来必要な人数の約7割で活動し、構成員1人が1.63人分の働きをしているという結果となりました。

三遠南信地域の民俗芸能は、構成員が3名と回答のあったものから530名と回答のあったものまで様々な規模があり、芸能の種類も多岐にわたります。

II. 団体の活動について

1. 関心を持ってもらうための取組【自由記述】

実施する民俗芸能や活動について関心をもってもらうために、団体が行っていることについて自由記述をしていただく質問で、76 団体から回答をいただきました。パターン分けをし、グラフ<図 8>にしました。



<図 8 : 関心を持ってもらうための取組>

多くの方に関心を持っていただくための取組として、最も多かったのは「パンフレット・ポスター」の発行で、チラシや祭礼のガイドブック、団体の活動紹介の広報など紙媒体での周知などが例として挙げられています。その他、「外部公演」、「SNS」、「回覧板」などの情報発信が多く取組まれています。また、外部の方への「公開・参加受入」、「女性の参加解禁」、「開催会場の変更」、「オンライン配信」など、運営方法を変えることで、多くの方の参画や観覧をしやすくするための取組をしている事例もありました。

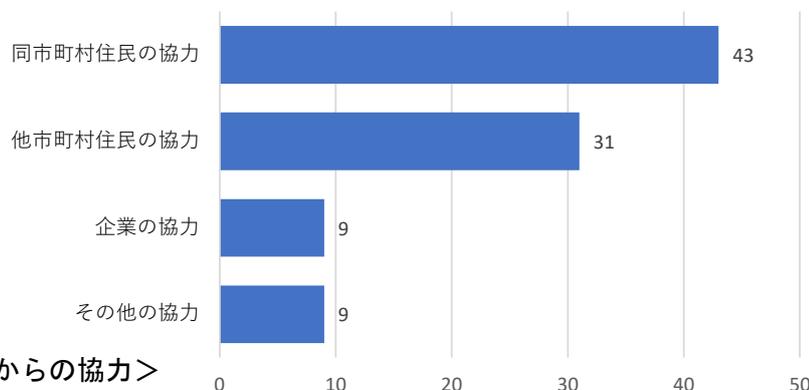
一方で、42 団体からは、未記入または「特になし」との回答をいただいています。特になしの理由としては、集落内での祭礼であるため、慣例化していて周知の必要がないためといった理由でした。また、団体としては特に周知等はせず、市や観光協会からの広報に任せているというケースもありました。

2. 行事への、地域在住者以外の協力【選択】

民俗芸能を行う上で、地域の人以外からの協力があるかという質問項目です。回答方法は、「ある」「なし」の2択となっています。アンケート提出のあった 118 団体のうち、116 団体が回答しています。内訳としては、64 団体からは「ある」、52 団体からは「ない」という回答でした。

地域の人以外からの協力が「ない」の理由として、「(活動費を) 町内会費で賄うため外からの協力は必要ない」、「地域の居住者のみで活動のため要請していない」といった回答が見られました。こうした外部からの協力を必要としない団体がある一方で、地域在住者以外の協力のない団体のうち質問 I-5 で構成員の不足を感じていると回答していたのは 27 団体あり、構成員不足感じながらも外部からの協力を得られていない団体が多くいるという現状が分かりました。

<図9>のグラフは地域の人以外からの協力が「ある」と回答した64団体に、どのような方からの支援があるかを選択式でお聞きしたものです。協力者については同市町村住民が一番多く、次に回答が多かったのは他市町村住民でした。他市町村住民とは、他の地域から保存会に入会して定期練習に参加している人や、開催時期に帰省する地元出身者などであるようです。また、南信州地域の民俗芸能団体からの回答に、南信州民俗芸能継承推進協議会のパートナー企業制度※の活用をされている例などがありました。その他の協力は、参加者の親族及び縁者やボランティア大学生などで、このように民俗芸能を外部の人々が支えているケースもありました。



<図9：地域外からの協力>

※【南信州民俗芸能継承推進協議会のパートナー企業制度】とは

南信州の民俗芸能を確実に未来へ継承するため、民俗芸能保存・継承団体の取組に協力し、支援いただける企業・団体の皆様を、県が「南信州民俗芸能パートナー企業」として登録する制度です。企業・団体の皆様には、民俗芸能の継承活動を支援することを目的として、南信州広域連合（南信州民俗芸能継承推進協議会事務局）と協定を締結します。

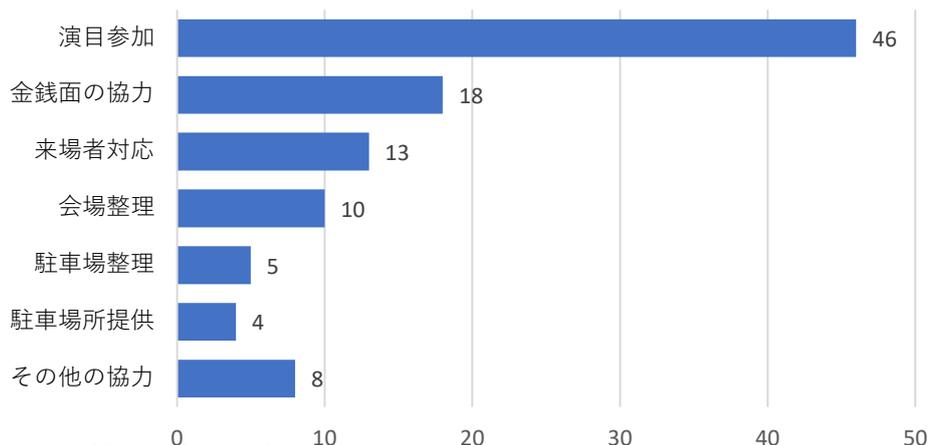
（協定の内容）

1. 従業員の民俗芸能参加奨励、休暇取得促進
2. 南信州民俗芸能継承推進協議会等が行う民俗芸能継承の各種取組への協力、支援
3. その他独自の取組の実践

詳しくは、長野県ウェブサイトからご確認ください。

<https://www.pref.nagano.lg.jp/minamichi/minamichi-kikaku/partnerkigyou/28gaiyou.html#seido>

また、地域の人以外からの協力が「ある」と回答した団体には、協力の内容についても選択式で伺っています。<図10>の表から分かるように、「演目参加」が最も多い内容になっています。続いて、「金銭面の協力」、「来場者対応」、「会場整理」、「駐車場整理」、「駐車場所提供」となっています。



<図10：地域外からの協力の役割>

「その他の協力」の内容としては、構成員不足の際にも挙げられていた民俗芸能本番前までの期間の祭具制作などの「準備」の協力をお願いしているケースや、地区には子どもがいないため地元小学校に通う地区外の児童に参加協力をお願いしているケースなどがありました。さらに、質問 I-5 で「演目参加」「来場者対応」「会場整理」「駐車場整理」の役割について構成員だけでは不足を感じていると答えた 70 団体について、質問 II-1 で地域外からの協力があると回答があったかを比較し、実際に不足している役割を地域外からの協力で埋めることが多少なりとも出来ているかについて調べました。

団体が構成員だけでは不足を感じていた役割のニーズを、地域外からの協力で埋めている割合は、<図 11>の通りとなりました。<図 6>の役割の項目で人数不足を感じていた団体で、地域外からの協力があったのは、「演目参加」が 29 団体、「来場者対応」が 10 団体、「会場整理」が 9 団体、「駐車場整理」が 4 団体という結果でした。「来場者対応」、「会場整理」、「駐車場整理」の役割は、ほとんどの団体で地域外からの協力を得ながら行っているということが分かります。

地域外からの協力がある役割			
演目参加	来場者対応	会場整理	駐車場整理
29団体	10団体	9団体	4団体
49.15%	90.91%	90.0%	100.0%
59団体	11団体	10団体	4団体
演目参加	来場者対応	会場整理	駐車場整理
構成員だけでは不足を感じている役割			

<図 11：人数不足の役割と外部からの協力>

しかし、「演目参加」に構成員不足を感じていて、地域外からの協力が得られている団体は 59 団体中 29 団体で半数以下となっています。半数以上は地域外からの協力もない状態です。しかしながら、構成員に特に不足を感じていないけれど、「演目参加」に地域外からの協力を得られている団体も 17 団体ありました。構成員だけでは演目を執り行う人数が足りず地域外からの協力を得られずに苦慮している団体もある一方で、特に不足を感じず、さらには地域外からの協力を得ながら演目を行えている団体があるということが分かりました。

地域外からの協力の受け入れが順調な団体とそうでない団体の差は、今回のアンケートでは詳しく分かりませんでした。背景等をもう少し調べる必要がありますが、団体の規模感や芸能の種別にも特異性などが見られませんでした。

3. 令和元年～5年の三遠南信地域の他団体との交流【自由記述】

令和元年から令和5年までの5年間に、三遠南信地域内の団体との交流の機会があったかを尋ねたものです。16 団体からの回答があったイベントのうち、一部記載します。

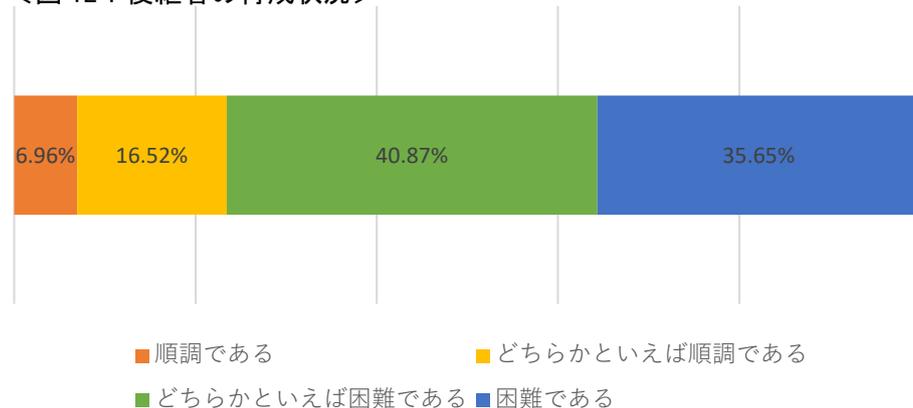
三遠南信地域の民俗芸能に焦点を当てたイベントへの参加として、年1回開催される浜松市内のNPO法人が主催する三遠南信の文化交流事業への参加や、三遠南信サミット開催日の午前中に開かれる「住民セッション」での披露、令和6年3月開催の南信州民俗芸能継承推進協議会主催の「第2回南信州民俗芸能フェスティバル」への出演が挙げられていました。また、各地域内で開催されているイベントへの参加としては、愛知県の奥三河地域（東栄町、豊根村、設楽町）の「花祭保存会」の交流や、遠州大念仏の保存会や静岡県以外の念仏踊り保存会が参加した令和4年の「遠州大念仏90周年記念祭」、静岡県内の民俗芸能保存団体が芸能を披露する「ふじのくに民俗芸能フェスティバル」への出演などがありました。SENAが後援名義使用承認をした行事も一部ありますが、このアンケートで初めて知ることとなったものもあります。

4. 後継者の育成状況【選択】

この質問では団体の後継者の育成状況について、「順調である」「どちらかといえば順調である」「どちらかといえば困難である」「困難である」の4択で回答、さらにその選択理由を自由記述で詳細に記入いただくもので、4 択の設問には 115 団体からの回答がありました。<図 12>

「順調である」「どちらかといえば順調である」と回答をした団体は 25%を下回り、三遠南信地域の民俗芸能の保存・継承団体の 76.52%、4分の3以上が「どちらかといえば困難である」「困難である」と回答をしている状況となりました。

＜図 12：後継者の育成状況＞



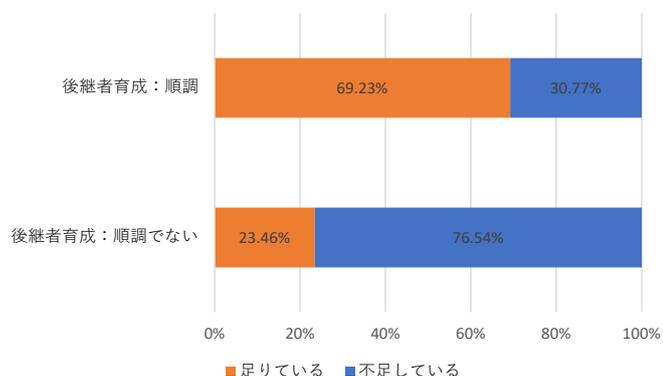
「順調である」「どちらかといえば順調である」と回答した団体は 27 団体で、継続的に地域の子供たちに民俗芸能に触れてもらう機会や、直近で若手の加入があったなどが理由として挙がりました。

この 27 団体のうち現在の構成員数が足りているかの質問に回答をした 26 団体の回答の比率をみると、「足りている」と回答したのが 18 団体で 69.23%、「不足している」が 8 団体で 30.77%でした。また、27 団体のうち地域外からの協力の有無についての質問に、「ある」と答えたのが 12 団体で 44.44%、「ない」と答えたのが 15 団体で 55.56%でした。これらを、グラフで示したものが＜図 13＞＜図 14＞です。

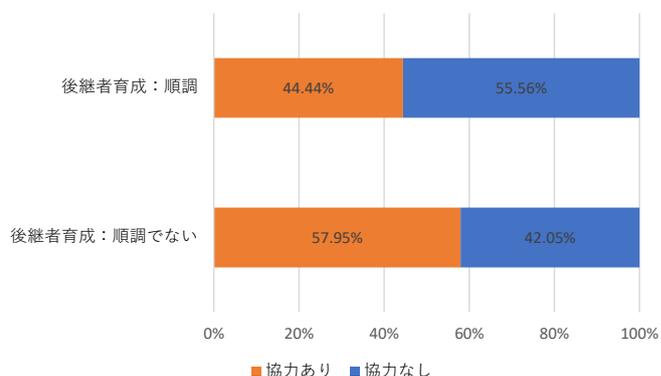
「どちらかといえば困難である」「困難である」と回答した、後継者育成が順調でない団体は 88 団体でした。理由のほとんどは人口流出・減少、若者不足、人を取り込むきっかけがないなどです。この 88 団体のうち現在の構成員数が足りているかの質問に回答をした 81 団体の回答の比率をみると、「足りている」と回答したのが 19 団体で 23.46%、「不足している」が 62 団体で 76.54%でした。また、88 団体のうち地域外からの協力の有無の質問に対し、「ある」と答えたのが 51 団体で 57.95%、「ない」と答えたのが 37 団体で 42.05%となり、＜図 13＞＜図 14＞の通りとなりました。

「順調である」「どちらかといえば順調である」と回答した後継者育成が比較的順調な団体と、「どちらかといえば困難である」「困難である」と回答した後継者育成が順調でない団体＜図 13＞＜図 14＞を比較すると、後継者育成が順調でない団体は構成員の人数の不足を感じている団体が多い一方、半数以上の団体が地域外からの協力を得ているのが現状です。

＜図 13：後継者育成状況と構成員人数＞



＜図 14：後継者育成状況と地域外からの協力＞



◇後継者育成：順調

後継者の育成について「順調である」「どちらかといえば順調である」と回答した団体の回答理由です。一部加筆・修正を行っています。

「順調である」回答理由
各地区保存会が取り仕切り <u>若年層の参加者育成</u> に力を入れている。
氏子の各家庭の男子が参加との取決めをしています。
参加資格に年齢制限があり、40歳までの男子としている。 <u>参加町内会を増やした</u> 。
五穀豊穡・無病息災・家内安全・世界平和等を願い、区民と共に祈願し奉納している。地区としても大切な行事の一つであり各町内の代表者で奉納している。

「どちらかといえば順調である」回答理由
参加者の高齢者が多くなり、 <u>若年層の参加</u> を考えている。
高校生を中心に例大祭で踊りを奉納した人々により保存会員の継承を行っているため。
伝統行事に理解、協力していただける方に比較的 <u>困った事が少ない</u> 為。
若い人が少ないが、 <u>4名入会</u> してくれた。
育成効果の見込まれるものに <u>ピンポイントで伝授</u>
現在は順調だが、若年層（20代30代）の新規参加者が少なく、10~15年後を展望した場合不安がある。
地区全体では人口は概ね維持されるであろうから。
9町自治会でまとまって実施していますので、各自治会で責任を持ってやって頂いています。
伝承継承活動の一環として小学生のお囃子教室や小中学校行方祭り歴史や文化の紹介授業（学校の要望）、県立高校の郷土芸能部の指導等を長らく行ってくる中で、卒業生が社会人となって <u>保存会に入会してくるサイクルが少しずつ出来てきている</u> 。市の枠を超えて <u>若者の活動参加</u> が有り難い。
地域的に高齢者が多く、現在のメンバーも高齢者で行っています。活動を維持して行くには、若年層の参加が必要ですが、地域に若年層の人が少なくとても困難な状況である。現在の活動では、 <u>村内に居る中学生や高校生</u> に参加していただき活動していますが、この人達が卒業すればどうなるか分かりません。
当保存会の本来の出場は、6年に1度、令和4年が直近の祭典。そのメンバーをもとに新人を発掘していく計画。60歳定年を実施し、指導者への転換。その分を補充するための <u>新人募集は前回までは予定通り</u> 。次回は不確定。
村内小学校での人形クラブの活動を行い、 <u>子ども達に取り組みを知ってもらっている</u> 。

◇後継者育成：順調でない

一方で、「どちらかといえば困難である」「困難である」と回答した団体の回答理由です。こちらも、一部加筆・修正を行っています。

「どちらかといえば困難である」回答理由
就職、進学等により他地域に移住される方が少なくない。かつてと違い、職場等の <u>祭礼参加への理解が乏しい</u> 。
中学校に部活があったり、講座に参加してくれる人はいるが、後任者がたくさんいるほどではなく、 <u>興味の範囲で終わってしまう</u> 。
<u>若年層の参加が減ってきている</u>
地域に <u>若年層が少ない</u> 。
<u>高齢化</u> や <u>若い人材が少ない</u> 為、後継者不足が問題となっている。
行事を行う <u>若年層が不足</u> している。

現在の神楽を行える構成員3名より <u>若い人が加入する見込みが無い</u> 為。
興味を持った方々の少しでも参加の出来るきっかけなどが企画できるといいかな
<u>高齢化</u> により、後継者がいない。 <u>若年層は、地区を離れていってしまう</u> 。
手伝ってくれる方はいるが、後継者になってもらえそうというわけではない。
積極的に後継者育成に取り組んでいるが、 <u>高齢化による減少</u> には追い付かないのが現状である。
<u>高齢化・人口減少</u> 等
地区内には若者、特に小中高生がほとんどいない（数名の小学生のみ）。舞は幼児から壮年までの年代ごとに多くの種類があるので、毎年 <u>舞子をつくるのに苦労</u> している。従来より地区出身者の子や孫、あるいは当地と縁のある方等とのつながりの中で協力者を募ってきたが、地元 <u>若い人が少なく高齢者が占める率が高い</u> 中で、そうした人たちの中で大人になっても地元とつながって構成員となってくれる人が出てきている。
会員は地区出身者が中心だが、 <u>人口の減少</u> によって会員がへっている。
<u>要員の選出にて敬遠され人選に苦慮</u> している。
①能家家族の <u>若者も他都市に就職</u> している。 ②地元企業はまつりに理解もあり協力もしてくれる。 ③他都市に就職して <u>長期（3日～4日）休暇の理解が難しい</u> 。
小学生が行う舞の <u>舞い子が困難</u> （2ツの舞）
自治会自体の個数の減少により、祭りの <u>指導（神楽）不足</u> 。
若い人が念佛に <u>興味がない</u> のが現状であります。
<u>少子化</u> に加え小中学生の <u>部活塾などが活動期の夏休みにかぶる</u> 。 多くの分野で見受けられますがコロナ禍で日本の風土というか慣習一変したようです。葬儀も近親者のみとか法事なども省かれるように住宅も親族一族が集まれる部屋がなくなり、飲酒の制限などがあって初盆は一族のお祭りではなくなってしまったように思われます。
地域在住者の <u>高齢化</u> が進み、班によっては氏神様選出が不可能に。
将来的に <u>少子化</u> や <u>若者の転出による不足</u> が懸念されている。
<u>人口減少</u> による人手不足
140世帯余りの地区の在住者や親族による保存会であり <u>母数が少ない</u> こと、 <u>活動が8月の旧盆で貴重な休暇で活動への参加に躊躇</u> することから、理解を得て参加できる方が少ない。
氏子総代は、他の地区と比較して総代をして頂く年数が長くなっており、神事等の伝承には問題ないのだが、成り手が無く <u>高齢になりつつ</u> ある。
各所で勧誘など行っているが、 <u>新しく加入する方がいない</u> 。 <u>年齢層が上がってしまった</u> ままである。
他地区や団体等から関心を持つ方、地区外在住であるか出身者などに参加・協力があるが、地区住民の <u>人口減少</u> や <u>高齢化</u> が進んでいる。
祭を主体的に動ける人材がまだ少ないから。好きなだけでは祭はできない。 背景や意味、神事的な理解も必要。
指導者の <u>高齢化</u>
地元在住者だけでは後継者の確保は出来ず、小学生や地元を離れて生活する者の応援が必須となっているが、豊作を願う踊りには、畑を守る地元住民の確保も重要であると考えするため。
<u>人口減少</u> 、 <u>少子高齢化</u> 等により、師匠役不足。 <u>若者減少</u> 、 <u>勤務上</u> から祭典への参加減少。 5年毎の当番地区祭典の為、途中ブランクになる。
<u>若い参加者を集めることが難しい</u> 。 生活環境の変化などにより、活動の継続が難しくなる人が多い。

<u>若者の参加者が少ない</u>
<u>地元住民の減少</u> により
外部からの参加は少なく、地区内の <u>若い世代の参加にも限界</u> を感じている。特に男性の参加が厳しい。
<u>若者が興味を持たない</u> 。
義太夫・三味線教室を開催して、後継者育成を行っている。
<u>地区内の若者が少ない</u> 為、地区出身者がこの冬祭りに参加する時休みが取れない場合がある。
<u>人材不足</u>
20～30歳代の <u>加入者がなかなか見つからない</u>
加入してくれても <u>仕事の都合</u> でコンスタントに参加できない人も多い

「困難である」回答理由
<u>過疎化</u> 、 <u>少子高齢化</u> による若年層の減少。
村に <u>若者が居ない</u> 。(世帯数 69 戸)
地区の <u>人口減少</u>
部落内に <u>若者、子供が居ない</u>
<u>若年者の保存会への加入がなく</u> 、放下おどりの踊り手を育成できない。
<u>若い人がいない</u> 。
時代が違う
祭事のみならず、 <u>高齢化</u> により、地域活動に支障が出ている。
能楽に対する理解不足、とっつきにくく敬遠されがち。シテ方、囃子方ともにプロの能楽師から指導を受けるため、謝礼等の経費負担が重荷になっている。(県からの後継者育成補助あり)
<u>人口減少</u> と <u>過疎化</u> により、 <u>若年層が不足</u> して、田楽の各役割の担い手がいなくなり、一部の役を省略して少ない人数で実施している。
<u>人口減少</u> により <u>若年層が不足</u> し、担い手が不足している。
<u>子どもがいない</u> 、 <u>若者がいない</u>
地区外に出て祭りに協力してくれる人たちも、その次の世代まで期待できるかという困難
演目に稚児の舞があり、本年なんとか3名入会してもらいましたが、後が無い。
<u>人がいない</u> 、 <u>子どもがいない</u>
<u>人口減少</u> 、 <u>高齢化</u>
集落に <u>子供がいない</u> (皆無)
集落の <u>若者は皆無</u> である。祭事に都市部に生活する後継者が2名ほど参加あり (3~4年前から)
<u>少子化</u> 、 <u>若年層の減少</u> が顕著であるため。
後継者がいない
例年、若手を探すが、思うように賛同してもらえない。
盆当日、 <u>勤務状況等により参加困難</u> 。地域行事に無関心。
<u>練習 (習得・体力) 期間が長く</u> (12~15 日間) 参加困難 等々
<u>少子化</u>
<u>少子高齢化</u> や、特にコロナ禍で (数百年来の伝統文化継承が) 一変したと思う。
獅子舞を舞う <u>若年層の大幅な減少</u>
地元 <u>若者の祭り参加への興味がなく</u> 、若者に楽しみを与えられる祭りではなくなっている
家を継ぐ人がいない
座員の <u>高齢化</u> で活動ができなくなり、新座員の加入が進まず困っている。

若年層が減少。やり手が居なくなっている。

人材の不足

関心がうすい事、練習に人数がなかなか集まらない

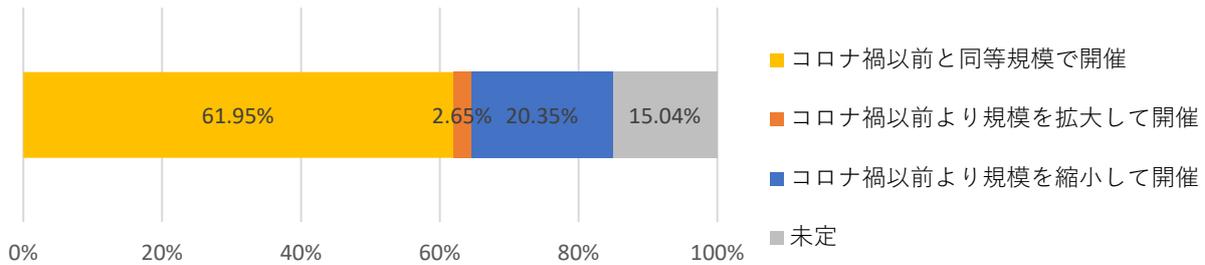
関係者の平均年齢が上がり、若年層の加入がない

住人が少ないため

5. 令和6年以降の活動方針（コロナ禍以前と比較して）【選択】

今年（2024年）の活動方針について、選択式で尋ねたものです。113団体から回答がありました。

<図15：コロナ禍以前と比較した2024年の活動規模>

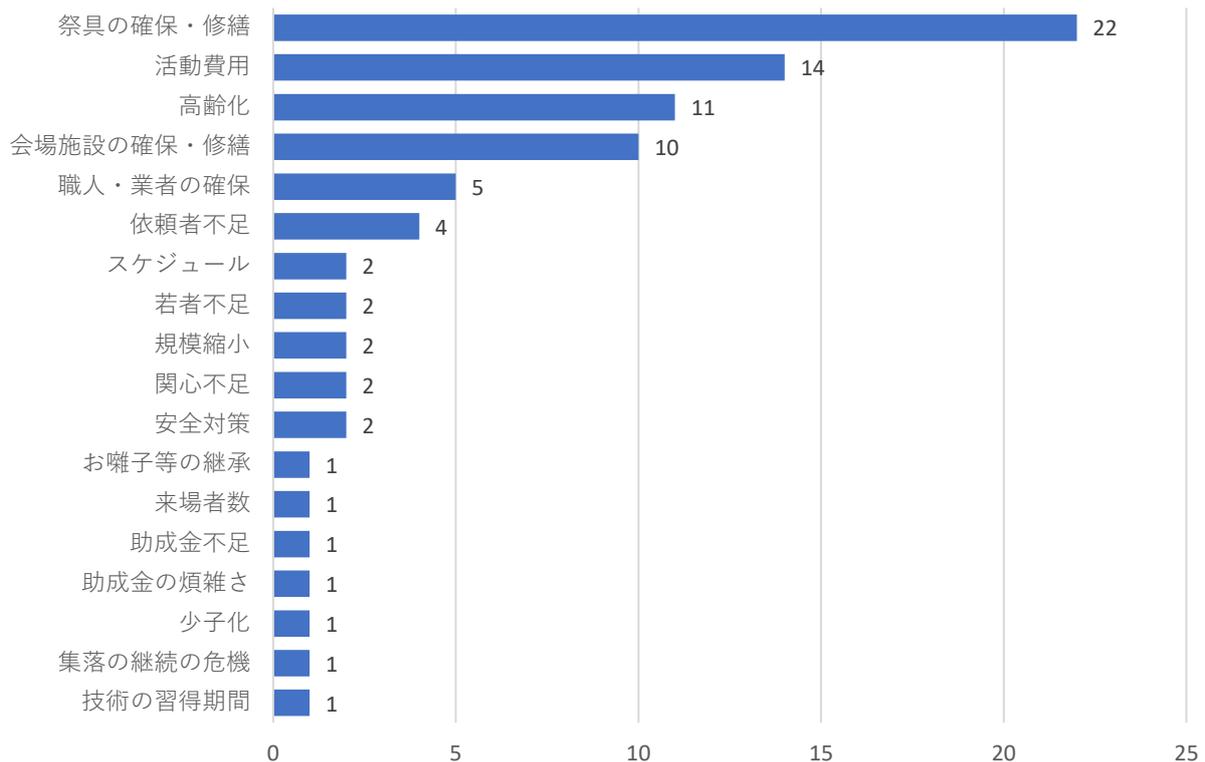


<図15>のグラフは、コロナ禍以前と比べて2024年の活動規模が「同等」「拡大」「縮小」または「未定」かを尋ねたものになります。6割以上の団体が、コロナ禍以前に活動規模が戻っていることが分かりました。しかしながら、2割はコロナ禍以前よりも規模を縮小しての活動となるなど、コロナ禍が民俗芸能に及ぼした影響は少なからずあったということが考えられます。

6. 人口減少以外の、活動する上での困りごと【自由記述】

人口減少以外で、団体が抱える課題等について、自由記述で記載していただいたものです。記入のあった61団体の回答をSENA事務局でパターンに分けて集計を行いました。

<図16：活動の中での課題等>



多くの回答があったのは「祭具の確保・修繕」への悩みでした。備品や衣装の老朽化や、祭で使用する材料の減少により入手が困難であることや、祭りで使用する道具の修理などの技術を持つ人の減少も課題となっていました。

また、「高齢化」はかなり切実で、とある奥三河地域内の地区の花祭からの回答には、「花祭は地域に根差した祭りであり信仰であり、当地に暮らす人にとって心の拠り所となってきたが、地区の高齢化が進み若者が少なくなる中で、そういったものが薄らいできている。民俗芸能としての花祭は外部の方の協力等により存続することができているが、地区住民にとっての花祭の意義が薄らがないよう存続していくかが今後の課題である。」といった内容がありました。地域に根差す祭り、信仰としての存在を、外からの協力を受け入れながらどう存続させていくかの悩みが感じられました。

また、「依頼者の不足」というのも印象的でした。新盆の家が対象となる念仏踊なども、亡くなった方の親族（相続人等）が、他市町村へ移住してしまっているため念仏踊の依頼が少ないようです。また、コロナ禍を通じて縮小や省略の動きが出ているとのことでした。

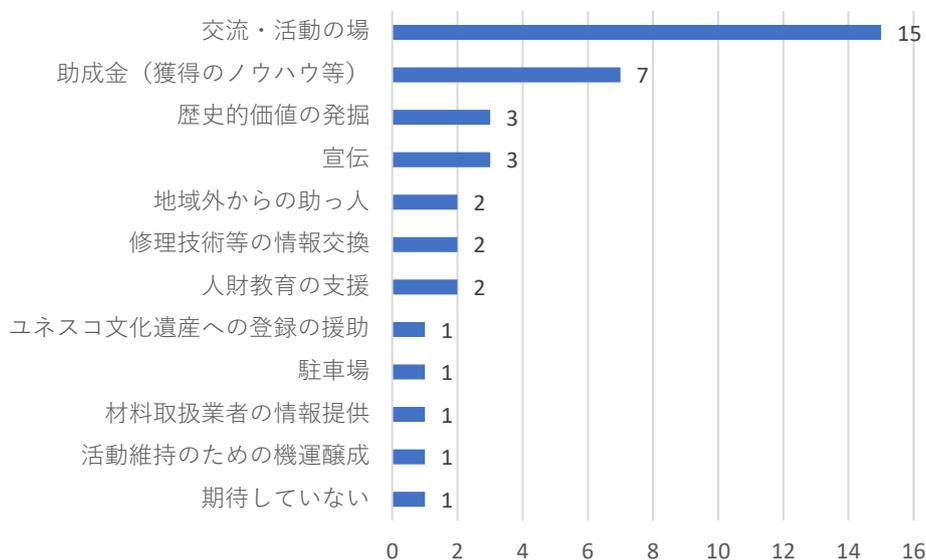
7. SENA からの支援として考えられるもの【自由記述】

こちらにも、質問に対しての回答があった 36 団体の回答を参考に、回答を SENA 事務局でパターンに分けて集計を行いました。SENA に期待することを尋ねたところ、最も多く回答があったのは「交流・活動の場の提供」でした。「郷土に伝承継承され、そこに住む人々の心に深く根付く「祭礼文化」が交流する機会が必要だと思う。このことを通じて特に三遠南信地域の人々の交流が進んだり、地域で生活することの魅力等が相互に再発見されたりして圏内の活性化が図られることを期待したい。」といった意見や、大名行列などの祭りについては「東海道の城下町が遠州・三河にあるので、そこでの交流や該当する町での行列披露をしてみたい」といったユニークな意見もありました。

また、活動資金の助成としてクラウドファンディング等に期待する声もあり、活動の上での課題にも補助金等の煩雑さが上がっており、資金集めのノウハウを求めている団体もいるようでした。

中には、「民俗芸能が守られている地域の人や魅力を広域的な価値として捉えて発信してもらえることは、内発的にも支援に繋がると思う。」といった、祭礼の情報発信をし、多くの人に民俗芸能に触れてもらい価値を発掘していただくことを要望する声もありました。しかし、交流・連携や宣伝等の情報発信を期待する団体がある一方で、「他地域や他団体と連携することは、自分たちの団体にとって負担となってしまうので、何も期待できない。」といった意見もありました。

<図 17 : SENA に期待すること>

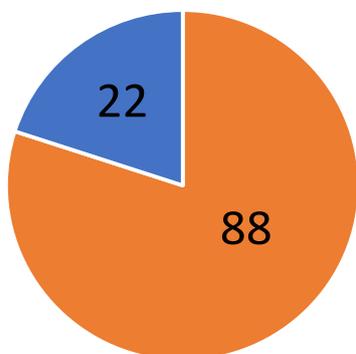


Ⅲ. 団体の民俗芸能の取扱いについて

1. SENA ウェブサイトへの掲載の可否、受入体制【選択】

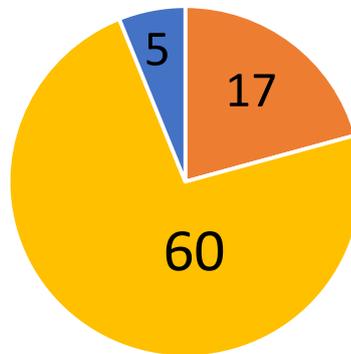
こちらの質問は、SENA ウェブサイトへ三遠南信地域の民俗芸能として、アンケート回答団体について一覽で紹介しても良いかを尋ねたものになります。また、載せてもよいと回答した団体には、①観光客の受入体制はあるか、②その他特記事項について、の2点を聞いています。

<図 18 : WEB サイトへの掲載>



■ 掲載可 ■ 掲載不可

<図 19 : 観客の受入体制>



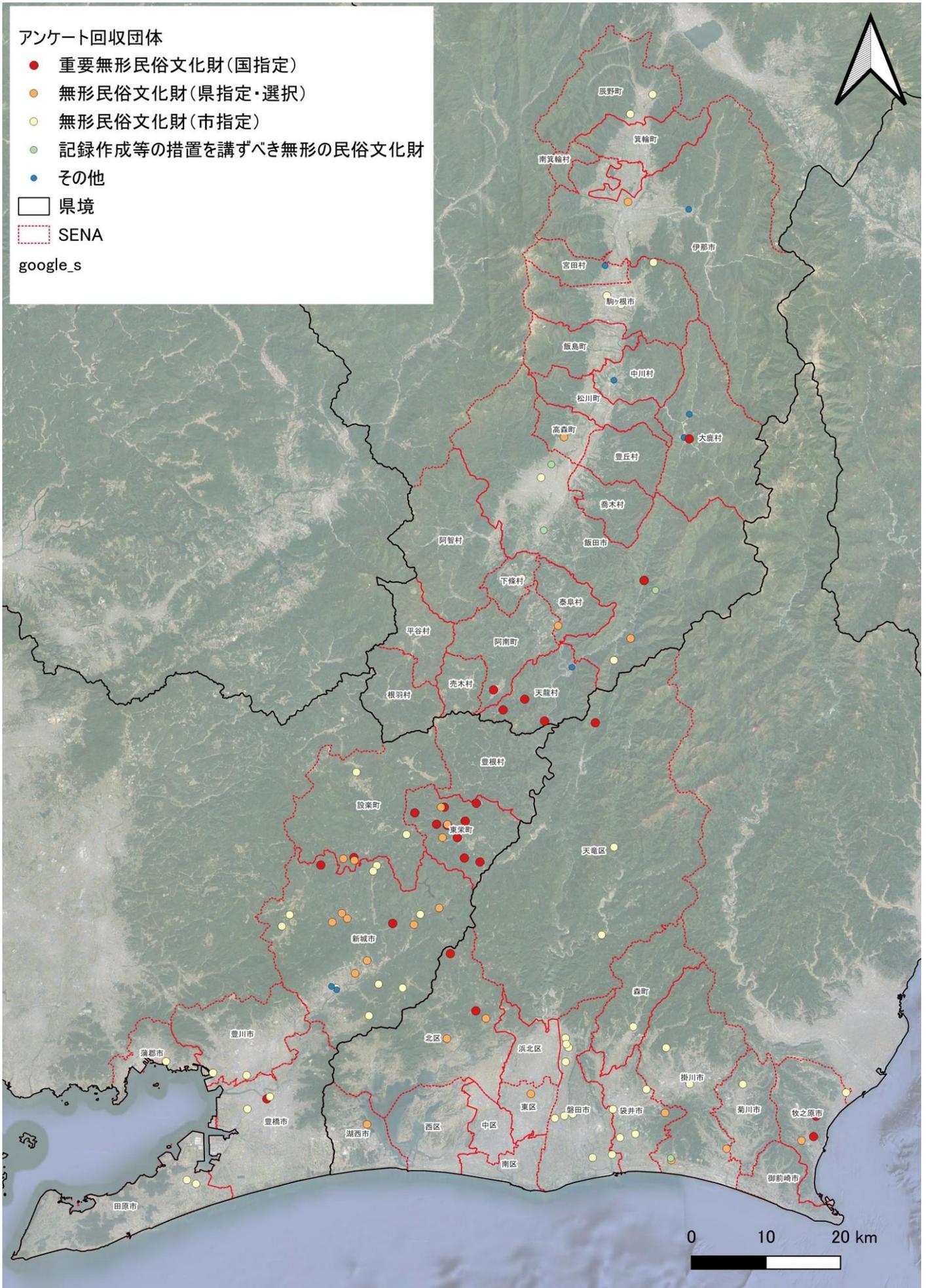
■ 受入体制完備 ■ 受入体制不備だが観覧可 ■ 観覧不可

回答があったのは 110 団体からで、そのうち 8 割の 88 団体から SENA ウェブサイトへ掲載をしても良いと回答をしていただけました。一方で、ウェブサイトへの掲載を希望されない団体もありました。

ウェブサイトへ掲載をしても良いと回答をいただいております。さらに受入体制について回答いただいた団体のうち、9 割の団体は観覧が可能とのことでした。しかし、観客の受入体制が整っているのは 2 割程度の団体で、7 割の団体は受入体制が十分でないとのことでした。路線バス等の公共交通機関がない、駐車可能スペースが少ないのが理由でした。また、観覧不可としている団体も少なからずあり、公共交通機関の本数が少なく開催時間に合わせた運行が出来てないことなどが理由のようでした。

特記事項には、団体の活動予定や民俗芸能の説明等さまざま記入をいただいております。

一部の記載には、「コロナ禍以後初盆宅からの依頼も無くなり、会員数も減少し、数年後には消滅すると思われる。」「高齢化及び人口減少につきまして、継続困難となりました。2023 年度をもちまして保存会を解散致しました。」「平成 31 年 3 月を最後に休止」等の記載もあり、市町村指定以上の文化財登録がありながら、活動を縮小、さらには停止している団体がありました。



浜松市については、境界線が区再編前の区域ごとの表示になっております。

三遠南信地域内の民俗芸能に関するアンケート

三遠南信地域内は神楽・田楽・風流踊りなどをはじめとする様々な民俗芸能が息づく「民俗芸能の宝庫」と称されています。

本アンケートは、本地域内の民俗芸能の活動団体を対象に、三遠南信自動車道が全線開通した際の民俗芸能を盛り上げるため、民俗芸能に関する一覧表の作成や活動状況の把握、今後の研究に向けた基礎調査として実施するものです。

なお、本アンケートは、人的・経済的な支援を確約するものではなく、検討させていただくための資料となることをあらかじめご了承ください。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、回答にご協力くださいますようお願いいたします。

回答は、郵送（同封の返信用封筒をご利用ください）、FAX、メールにて令和6年4月17日（水）までにご回答ください。

なお、本紙はメール送付も可能ですので、ご希望の方は下記連絡先へその旨ご連絡ください。

○調査実施機関

三遠南信地域連携ビジョン推進会議 事務局 担当：矢澤、加藤

住所：静岡県浜松市中央区元城町 103-2 浜松市役所企画調整部企画課内

電話：053-457-2242 / FAX：050-3730-1867 / E-mail：sena@clear.ocn.ne.jp

○調査実施期間

令和6年4月17日（水）まで

○調査対象

三遠南信地域内の民俗芸能に取り組む団体

三遠南信地域連携ビジョン推進会議（SENA）^{セナ}について

◆三遠南信とは

愛知県東部の東三河地域を「三」、静岡県西部の遠州地域を「遠」、長野県南部の南信州地域を「南信」とした3県の県境にまたがる地域のことを指します。

◆目的

三遠南信地域連携ビジョンの実現のため、東三河地域、遠州地域及び南信州地域（以下「三遠南信地域」という。）の県境を越えた地域連携を推進し一体的な圏域の発展を目指すことを目的に、平成20年11月に発足しました。

◆構成員

三遠南信地域に係る普通地方公共団体及び商工会議所・商工会の95団体から構成されています。（東三河地域23団体、遠州地域26団体、南信州地域46団体）

I. 貴団体の概要についてお尋ねします。

1. 貴団体名

よみがな

2. アンケート回答者

よみがな

◆役職

3. 貴団体の連絡先

電話番号 ()

E-mail

担当者名

4. 団体の構成員は何名いらっしゃいますか。※年代が不明な場合は合計欄にのみ記入ください。

10代以下 男性： 名 女性： 名 50代 男性： 名 女性： 名

20代 男性： 名 女性： 名 60代 男性： 名 女性： 名

30代 男性： 名 女性： 名 70代 男性： 名 女性： 名

40代 男性： 名 女性： 名 80代以上 男性： 名 女性： 名

合計 男性： 名 女性： 名

5. 活動人数は十分に足りていますか。(該当にチェック)

団体の構成員で足りている 団体の構成員では不足している

上記にて「団体の構成員では不足している」と回答された方は、詳細を教えてください。

何名程度不足していますか。 名程度

どのような役割で不足していますか。(該当にチェック)

ある演目を行うための人数(主体者) 来場者対応 会場内整理

駐車場整理 その他 (その他の場合、以下の括弧内へ記入ください。)

II. 貴団体の活動についてお尋ねします。

1. 多くの方に興味を持ってもらうために行なっていることがあれば教えてください。
 (例：紙媒体でのチラシの作成や SNS へチラシ等を掲載するなどの告知 等)

2. 行事を行う上で、地域在住者以外の協力・支援はありますか。(該当にチェック)

ある ない

上記にて「ある」と回答された方は、どのような方からの協力・支援がありますか。(該当にチェック)

同じ市町村内 他の市町村 企業（企業従業員） その他

(その他の場合、以下の括弧内へ記入ください。)

()

どのような協力・支援がありますか。(該当にチェック)

ある演目を行う者（主体者）としての参加 来場者対応 会場内整理

駐車場整理 駐車場所の提供 寄付金等による金銭面の協力

その他 (その他の場合、以下の括弧内へ記入ください。)

()

3. 令和元年から令和 5 年（2019 年から 2023 年）までの間、三遠南信地域の団体（同じ地域含む）と交流する機会がありましたか。あった場合は、時期と団体名を教えてください。

<時期>	<交流団体名>	<交流内容>
令和 年 月		

4.後継者の育成状況について教えてください。(該当にチェック)

- 順調である どちらかといえば順調である
 どちらかといえば困難である 困難である

上記を選んだ理由を詳細に教えてください。

(例：SNSで周知したことによって、興味を持った若年層の参加が増えている等)

5.今年(2024年)以降の活動方針について教えてください。(該当にチェック)

- コロナ禍以前と同等の規模で開催 コロナ禍以前より規模を拡大して開催
 コロナ禍以前より規模を縮小して開催 まだ決まっていない

6.人口減少を除いた、団体として抱えている課題等がありましたら、教えてください。

(例：備品の老朽化が進むなか、補修対応が可能な店舗がない等)

7.SENA(広域的な目線)からの支援として考えられるものがありましたら教えてください。

(例：他地域と交流する機会の創出等)

Ⅲ. 貴団体の民俗芸能の取扱いについてお尋ねします。

1.SENAホームページにて、三遠南信地域内の民俗芸能を下表のように一覧にし、掲載をしたいと考えています。掲載させていただいてもよろしいでしょうか。(該当へチェック)

- はい いいえ

地域	市町村	名称	名称 (読み方)	種別	開催月	観光客 の受入
遠州	浜松市	〇〇祭り	〇〇まつり	神楽	1月	◎

※観光客の受入れについて…◎受入体制が整っている、

○受入体制が整っていないが、観覧可能

×観覧不可能

前ページにて「はい」と回答した方は、以下に回答ください。

①観光客の受入（該当にチェック）

- 受入体制が整っている 受入体制が整っていないが、観覧可能
- 観覧不可能

②その他、特筆すべき事項がありましたら括弧内へ記入ください。

（例：駐車場に限りがあるため、出来るだけ公共交通機関や相乗り等でお越しく下さい。等）

アンケートは以上です。ご協力、誠にありがとうございました。

（お願い）

回答内容について、お問い合わせさせていただくことがありますので、その際にはご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。